

2019. 2

2

321号 2/15

もえぎ

庭野正夫さん書

MOEGI



医療法人社団萌気会
在宅療養支援診療所 (二日町)
在宅療養支援有床診療所 (浦佐)

もくじ	
季々雑感	2
管理者・リーダー研修に参加して	3
漫画 黒岩卓夫一代記	4
第25回 全国の集いin東京2019プレ大会	5
コム・ソフィ&ナース	6
びしゃもん茶房	7
うちの利用者さん&家族からの文	8

《専門外来》のご案内

浦佐診療所

☎025-777-5222

- ・整形・リウマチ科
- ・糖尿病専門外来
- ・癌相談外来
- ・循環器内科

二日町診療所

☎025-778-0088

- ・整形・リウマチ科
- ・糖尿病専門外来
- ・物忘れ外来

あやめ診療所

☎025-780-4377

- ・生活サポート外来
(発達障害など)

電話にてご予約を承ります



2月24日(日) びしゃもん茶房
(10時~12時)

往診・訪問診療も承っています。二日町診療所は年中無休(365日)です。

季々雑感

今年もインフルエンザが…

二日町診療所 所長
皆川 秀夫



今年は寒いか。昨年秋、エルニーニョ現象が終わり、今冬は暖冬の予想であったが、それは太平洋側の話で、今年に入って日本海側は例年並みの寒さで積雪も例年並みだ。インフルエンザの発生も昨年より遅れたが爆発的発生、流行で最近1~2週間の発生数は国立感染研の報告で全国的に過去最高を記録し、新潟県でも過去最高、全国2位を記録した。分離ウイルスは10年前流行した新型A/H1が多く、次がA/H3（昔のA香港型）でB型は少数である。当院でも1ヶ月近くこれらの患者さんで外来は混雑している。休日などには、100人を越す患者さんを数えるほどだ。なかには発熱もなく軽い風邪の症状だけでインフルエンザの検査を希望してかかる方もある。何でも職場でインフルエンザに神経質になっていて、怪しい人には検査に行くよう言われるらしい。学校でも風邪疑いの生徒は早退させ、医師受診を勧めているようだ。このため最近インフルエンザウイルス抗原定性検査の頻度が増え、健康保険負担が増加しているようだ。さらに昨年、抗インフルエンザウイルス剤の新薬、ゾフルーザが発売されたが、高額な薬価で使用量の増大が保険財政の圧迫につながっているようだ。このため、保険財政当局からは、医療側に様々な圧力がかかる。いわく、発熱のない患者、発熱より丸2日以上経過した方への検査、又、治ったかどうかの検査も認められないと。このゾフルーザだが、他剤にない作用機序で直接ウイルス本体に作用し破壊するというものだが、早くも耐性ウイルス（薬が効かない）が出現しているようだ。又、既存の他剤に比べて著しい有効性が認められてはいない。インフルエンザの場合、何もせず、寝ていけば治るとする専門家も多い。この時期は風邪も多いし、ノロウイルスを始めとした感染性胃腸炎も多い。いずれも治り切らないうちに次々と感染を合併することも多い。インフルエンザかどうかだけにこだわるのではなく、感染症にかかった時は早めに職場・学校を休み、療養できる体制をとれるよう行政の一層の支援をお願いしたい。



管理者・リーダー研修に参加して 4日間の研修で学んだことと、これからの実践

萌気園グループホーム「ふきのとう」

管理者・所長 高村 真美



今回初めて管理者・リーダー研修に参加させていただきました。講義だけではなくゲーム形式での研修もあり、普段関わる事の少ない職員達とコミュニケーションをとり、自分の意見を言い、他の人の意見をしっかりと聞き協調性をもつ事、自分が最も苦手としていた事を学びました。

相手とコミュニケーションをとる時は、まず、相手の話を聞くことだということ。常々心に留めていましたが、その聞き方が重要だと感じました。聞いているつもりがつい自分の意見を押し付けてしまったり、自分のペースで聞いてあげている感が出ていたのではないかと反省しました。職員会議やミーティングでも発言の少ない言葉で意見を聞いたつもりになっていたので、その人の無意識にある気持ちを聞いてあげたいと思いました。それで、本人が納得できる話し合いが持てればお互いの向上につながるのではないかと思います。

その他にも、自分は管理者を務めさせていたのですが、業務を日々行う事に重点をおきすぎている事に改めて気が付きました。管理者は、日々の業務を円滑に進める事も大事ですが、事業所の利益や生産性の向上に努めなければいけないと痛切に感じました。

自分は全然出来ておらず、まだまだ努力が足りてないと感じました。何かを変えたければ自分自身が変わらなければならぬと気づき、自分が苦手としている他の職員達と積極的にコミュニケーションをとるこ

とから行いました。「継続は力なり」、自分自身が変わり、周りに良い影響を与える、そういったことが少しだけできるようになったと感じています。職員間の雰囲気も良くなれば生産性も上がり、利益につながり職員の満足度が上がると実感しています。

最終日には、受講生代表として挨拶をさせて頂きました。4日間の研修でしたが「現在の自分を見つめる」非常に中身の濃い研修でした。今、私に最も足りないのは人との関わり方です。もともと自分自身の心を開き、人と関わっていきこうと思います。具体的には、今以上に人に関心を持ち職員全員に分け隔てなく声を掛ける機会を増やしていこうと思います。そして後輩たちへ良い影響を与えられるような人物になっていきたいです。



管理者・リーダー研修を終えて

(医)萌気会 事務局次長 上村 光男

平成30年10月～平成31年1月の4カ月の期間、大和公民館をお借りし、講師にコンサルティングが専門の福祉マネジメントラボ代表である大坪信喜氏の研修を、1日コースで4回行いました。全員ではありませんでしたが、現在事業所で管理者を行っている方や、次期リーダーを見据えての対象者20名程の参加でした。4回の研修カリキュラムの中で、それぞれが考え思うことがあったのではないのでしょうか。

今回の研修では管理者・リーダーとしての考え方、経営やマネジメントの基礎を学び実際の職場で実践していただき、発表するという、学びと実践があったと思います。それぞれの事業所において、今後役に立てていただきたいと思います。医療職、介護職、事務職等、普段は他の事業所の方々と一緒にグループワークや学びを行うことは、良い機会だったのではないのでしょうか。

最終日に感想文を書いていたいただきましたが、参加された皆さんには概ね好評だったように思います。今の自分を見つめ直しながら学びが出来た事と思います。今回の研修で得た事を是非今後生かしてください。

職員皆が働きやすく、法人がより良くなり、増々地域に安心安全と信頼を届けられるように、今回学んだ事も踏まえ、それぞれが知恵を出し合いながら未来へ進んでいきたいものです。お疲れ様でした。



- ①山猿少年の楽しい活躍を御覧下さい。遊びとおやつの確保（栄養補給）が一体となっています。あけびの蔓が精いっぱい伸びて、木の枝にからみ、フワフワした“ゴリラの巣”のようになります。そこに山猿少年が居座って、あけびを取るという素晴らしい遊びになったわけです。
- ②桑の実と一緒にカメムシを咬んでしまったのは大失敗。カメムシは信州ではヘップリムシと言いました。口の中が破裂したような刺激はおそらく蟻酸ですね。コリゴリです。



“2019 団塊・君たち・未来”

日時：2019年1月12日（土）13時半～18時

会場：東京大学 安田講堂



東京大学 安田講堂内



東京大学 安田講堂

黒岩理事長
閉会式の壇上にて

憧れの東京大学の赤門をくぐり、安田講堂の前に立った時に子供の頃に白黒のテレビに映った映像が一瞬、頭の中によみがえってきました。講堂でヘルメットをかぶり、旗を持った学生が警察官と争っているところが思い出されます。

さて、今回の講義で私が興味を持ったのは藤田孝典さんの「下流老人の問題提起とその意義」でした。藤田さんはご自身の活動内容や報告を主に下流老人の定義として、「収入がない」「貯蓄がない」「頼れる人がない」3つの「ない」が原因で社会的に孤立し様々な問題の早期発見が難しくなり、貧困の早期リスクが高まると言われていました。

私は下流老人と言われる方々がもしかしたら、私の周りにもいるかもしれない。もしかしたら、私も？と感じてしまいました。幸い私は老後、収入と貯蓄の2つはないが頼れる人がいるので、ほかはどうあれまだ大丈夫？かもしれないが家族が少なくなっている今、両親の世話のために早期退職を余儀なくされることは、誰にでも起こりうる現実だと思いました。

最後に普段では立ち入ることのできない講堂に入らせていただき、激動の時代を駆け抜けた方々のお話を聞けて、とても有意義な日を過ごさせていただきました。

グループホームふきのとう 上村和美

50年前の東京大学安田講堂事件という歴史的事件と同じ会場で行われたこともあり、発言者の方々もいつもより熱気あるように感じました。戦争の話や平和の大切さ、差別や貧困問題、人権などなど様々な点で貴重なお話を聞かせて頂き大変良い研修になりました。

その中でも現在の業務にすぐ関係する話としては、三好春樹さんのお話で50年前の介護現場はただ素人のおばさんたちで、病院では「もうこれ以上良くなりません」と言われた高齢者たちが、老人ホームに入所すると、どんどん元気になっていく不思議な現象をみて、それで介護に魅力を持ったという話がありました。三好さんは「そのことをよく考えてみると、その当時の介護職員は何の専門的な知識や技術はなく何も特別いい事はしなかったけれど、ただ高齢者の嫌な事はしなかった、嫌な事をされないというだけで高齢者たちは自分でどんどん元気になっていった」と話されていました。これは今のコム・ソフィ&ナースでの介護にとっても大事なことだと思います。「専門性の高い人ほど高齢者の嫌がることを平気でする」そうです。コム・ソフィ&ナースはまず、いい施設じゃなく、嫌じゃない施設になれるといいと思いました。

かんたき萌気 コム・ソフィ&ナース 若井実栄治

結城康博先生は「団塊の世代の責務」をタイトルに、介護を受ける高齢者側の問題を率直に述べられ、議論的となりました。85歳以上で顕在化する要介護、認知症、ゴミ屋敷等の生活の支障。若い世代に頼らざるを得ないこれからの介護現場で、「わがままで性格が悪い高齢者が増えている」「(報酬が見合わない事もあり)今の18才～24才の子たちが現時点で、介護に進みたいとは思わない」「いかに性格のよい高齢者を増やすかが地域包括ケアのポイント」と述べました。

“性格を直す事はできないだろう”という反発意見もありましたが、「要介護になったら支えられ上手になろう。あいさつや、感謝の言葉を」という結城先生のお話には納得できる所も多く、支えられる側、支える側が互いに思いやり、協力することは現場でも感じている事でした。

「未来を語る」では黒岩理事長を座長に、鎌田實先生がステージ中央で原稿もなく一人立ち、ゆっくりと語られる姿が印象的でした。私達が関わっている利用者さんは、いつか死ぬ。私たちも、いつか死ぬ。その時どうするか？大切な人を看取るとき、どうしたいか？黒岩理事長に何度となく問いかけられ、頭では考えていたことですが、改めてあの場で投げかけられた時、この場にいる老若男女全員に共通する、社会全体の課題なのだと思える思いでした。

訪問リハビリテーション りらいふ 金本優理

かんたき萌気

コム・ソフィ&ナース

Com・philosophy&Nurse

管理者・所長 星山 祐子



一日の 過ごし方

自宅に居るような感覚でくつろいでいただける環境づくりを目指し、一人一人の生活リズムや個性を尊重し、穏やかな時間を過ごしていただいています。

9:00 ● 送迎車到着

落ち着いたBGMで迎えられて、ほっと一息の水分補給。

9:30 ● 健康チェック

常に看護師、介護職員で情報を共有し、利用者様の小さな変化まで気づきやすく、きめ細やかなサービスを提供します。

10:00 ● 入浴

リバーサイドの景色が最高な入浴へ。特殊浴になっておりますので、体を自由に動かさせない方でも、安心して入浴を楽しんでいただけます。



桜の季節が待ち遠しいですね。

11:30 ● 嚥下体操

口だけでなく、首周りの体操から発音まで、飲み込みの強化を行います。より美味しくご飯を召し上がっていただけます。

12:00 ● 昼食

「安全・美味しい・楽しい」をコンセプトに、心を込めて手作りしています。

14:00 ● レクリエーション

体操やカラオケ、皆様楽しんでいただけるゲームや旬なイベント行事などを行います。楽しい手遊びも、大切な生活リハビリです。

15:00 ● おやつ

日によって、手作りおやつや、ケーキ作りなどをお楽しみいただきます。和やかで利用者の方々から自然と笑みがこぼれます。

16:00 ● 送迎車出発

泊まりの利用者様は、夕ご飯まで休憩フリータイム。



施設見学も可能です。ご不明な点がございましたら遠慮なくお尋ねください。同時に、一緒に働いていただける職員もお待ちしております。

タオルの寄附をお願いします。 ご家庭の使用していないタオルがありましたら、ご寄附をお願いします。
コム・ソフィ&ナース TEL 025-778-0311 (担当:星山・若井)

びしゃもん茶房

ロコミで浸透



医療法人社団萌気会が浦佐「ほっと館」で開いている「びしゃもん茶房」が好評だ。高齢者を中心に地域の住民が気軽に交流できる場をつくり、平成27年9月より月1回のペースで開催している。地元の高齢者を中心にロコミなどで広がり、回を重ねるごとに利用者は増えている。

今まで出来ていた事が少しずつ難しくなると感じる方や、その家族が気軽に介護についての情報交換ができる「オレンジカフェ」としての機能だけでなく、多世代の地域住民の交流を重視しているのが特徴的だ。「仲間がいる、仲間がみつかる、声をかけてくれる、情報を届けてくれる」外に出る機会が少なくなる高齢者にとって、このような場があることは大きな安心になると思う。

自慢の手料理で埋め尽くされたテーブルを囲み、コーヒーやお茶を飲みながら和気あいあいと時間を忘れ「笑顔と笑い声で」楽しい時間を過ごしていただく。

大正生まれの利用者さんは「家で昔の話をして誰も聞いてくれないし、わかってもくれない。此处に来ると同年代の仲間がいる、ついつい昔話に花がさいて若いころを思い出す」と、まるで少女のような笑顔で話した。

今後も月1回のペースで開催していく。お茶代の100円を持って気軽に参加してもらいたい。「びしゃもん茶房」が地域住民の憩いの場となれたらいいと期待している。



萌気会恒例 ～第12回～

いろりを囲む会



2月1日、萌気園大和通所介護「地蔵の湯」で「いろりを囲む会」が開催された。2009年から始まり、今回で12回目となる。萌気会のメンバーが「いろり」を囲み皆で鍋をつつき、上下関係や他部署、多職種関係なくお酒を飲んで楽しむ会である。

囲炉裏鍋が自在鉤に釣るされた姿は圧巻であり、五徳にのせられた姿も迫力があつた。緩やかに燃える炎をみつめ元来人間は火を用いる動物で、遠い古代から火と共に暮らし燃える火を見つめて、心を和ませていたことを再確認した。

不安や心配事から解放され、明日への活力となることを期待する。

「いろりを囲む会」に参加して

訪問リハビリテーション 理学療法士 りらいふ 阿部 友恵

「いろり」と言えば昔話に出てくるイメージでしたが、まさか萌気園大和通所介護「地蔵の湯」にあり、現在も使用出来るということに驚きました。

実際に参加してみると、部屋の中は温泉の良い香りがし、畳みの真ん中には大きないろりがあり、その上には藁草履が飾ってあるなど、現代の様式とは違う経年変化と共に深みを持った空間に不思議な気持ちになりました。そのいろりを、黒岩理事長や奥様、黒岩巖志先生をはじめ、萌気会の様々な事業所から集まった職員で囲み、職員手作りの美味しい鍋や混ぜご飯、浦佐名物のおかもちや奥様お手製のケーキなど、たくさんのご馳走や飲み物を頂きながら会が進みました。まずは自己紹介から始まり、2周目は「一番嬉しかったこと・悲しかったこと」がお題でマイクが回りました。大人になると人前で自分自身の話をする機会はあまりないので、最初は緊張しましたが合いの手や質問などが交わされ、和やかに話したり聴いたりすることが出来、楽しいひと時となりました。また、仕事以外の黒岩理事長のお話を聞けることは貴重であり、その中でも黒岩理事長が子供たちのお弁当を作っていたというお話にはさらに驚かされました。

いろりを囲むことで顔をみながら、会話をしながら、時間をかけて食事をとることの大切さ、TVがなくとも、笑ったり驚いたり学んだりすることが出来る楽しさを改めて感じる事が出来ました。

うちの利用者さん

千喜良操様

(もえぎ元気アップ教室利用者)



「もえぎ元気アップ教室に通われてどのくらいですか？」

「2年半です。」

「利用していかがですか？」

「地獄(H27転倒による左鎖骨・左肋骨・左肩・左足首骨折)に一回落ちたのが運動をして這い上がり、生きる事の大切さを感じました。初代運動指導士の杉村先生に出会い、目覚める事ができました。」

「ご自身の体についてとても勉強家でいらっしゃいますが、きっかけを教えてください。」

「病気をして言葉が出にくくなり、体も動かさず切なかった時がありました。このままではいけないと思いました。」

「主にどんな事をされていますか？」

「体についての本を買って読んでいます。あと、教室で習った運動を忘れないために、家に帰ってからメモをしています。毎日自主トレーニングをしています。久保田先生から体幹がしっかりしていないと立てられないと教わり、しこを踏んだり、窓の外に見える八海山に向かってかかと上げをしています。心身共に柔軟に生きられる、夢のある毎日を過ごしています。」

「日々努力され、ますます元気になりますね。」

「実現はできないけど霊柩車には乗らず、歩いてあの世に行きたいです。もえぎに出会えて本当によかった～、今が私の旬です。感謝感謝です。」

運動をする場だけでなく交流の場として利用されている、笑顔が魅力的な操さん。気兼ねなく、笑いが絶えない楽しい時間を過ごせてもらえればと思います。 <もえぎ元気アップ教室職員一同>



〈リゾットあぜ地利用者

大津政幸様

家族一同様〉

喜び、好きな本やスケッチブック、色鉛筆などを手
提げに入れて通う日々が続いています。
それと同時に、言葉も右半身の動きも少しず
つ改善しているように感じます。
今日も、「出された食事は全てた
いらいら、元気に過ごしています。」
との連絡メモをいただきました。
家族以外の様々な方との関わ
りの場があることで、このような
変化が表れたことを家族一同大変
喜んでおります。感謝！



感謝！多くの皆様に支えられて

父が脳梗塞を発症したのは昨年八月十四日の早朝、四時半頃でした。自分で墓参りの準備を行なった後、喋ることができないことに気付いき、慌てて我々を呼んだのです。

落ち着かせようとお茶を飲ませたところ、お茶が口元からこぼれ、顔つきも変です。すぐに病院に連絡し、検査を受けると案の定、脳梗塞(左脳)でした。言葉と右半身の動きにダメージを受けていました。

それから三ヶ月の入院を経て、十月末から「リゾットあぜ地」さんにお世話になっていきます。入院中は医療・行政・福祉関係の皆様が大変お世話になりました。現在は「あぜ地」の皆様を支えられて過ごしています。

以前は山竹のザルや捏ね鉢づくりに励んでいましたが、言葉だけでなく意欲も失われていたところ、あぜ地の皆様の温かい声かけや配慮をいただき、好きな本やスケッチブック、色鉛筆などを手提げに入れて通う日々が続いています。

編集後記

☆インフルエンザが大流行しています。職員も5日現在で11名の感染報告がありました。インフルエンザ対策としては「手洗い」「うがいの徹底」や「マスクの着用」などはよく言われますが、以外にも「歯磨き・口腔ケア」が予防効果を高めるそうです。まだまだ寒い日は続きます。栄養バランスのよい食事を摂り、十分な睡眠時間を確保し、適度な運動をし、インフルエンザウイルスに負けない体を維持、増進するよう心がけましょう。

〈大平〉

